

FANCT

旭川工業高等専門学校 学校だより“ファンクト”
平成31年3月発行

vol.133



今年度もさまざまな国際交流事業を行いました（詳細は8ページ）

Contents

特集 卒業・修了おめでとう!2~4

平成30年度 卒業生・修了生進路状況	4
第4学年見学旅行	5
コンテスト出場報告	6、7
ANCTOPICS	8
退職する教職員の紹介	9

産業技術振興会の企業紹介	10
学内セミナー	10
平成31年度行事予定（4月~5月）	10
編集後記	10

卒業・修了おめでとう！

卒業生、修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。
本校で培った知識や技術を活かし、新しい世界での飛躍を祈っています。

専攻科長 大島 功三

専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございます。平成も終わりを迎えようとする新しい時代へ向かって、大きな夢と希望を持って飛び立とうとしている皆さんへ心から声援を送りたいと思います。

科学技術の発展により、大きな変化が起こるであろう将来には皆さんの若い力が必要となります。専攻科の2年間で、特別研究、インターンシップ、エンジニアリングデザインなど様々な授業を通して身に付けた、「自ら課題を見つけ、創造的な活動を行う能力」を存分に発揮して欲しいと思います。新たな社会では、不運や逆境に直面することがあるかもしれませんが、旭川高専生活で培ったであろう様々なスキルを発揮し、見事に乗り越えて下さい。

皆さん一人ひとりが旭川高専に対し、いつまでも変わらぬ愛をもち、新時代を切り開いてくれることを願っております。皆さんの輝かしい未来の素晴らしい幸運と活躍を心より祈っております。



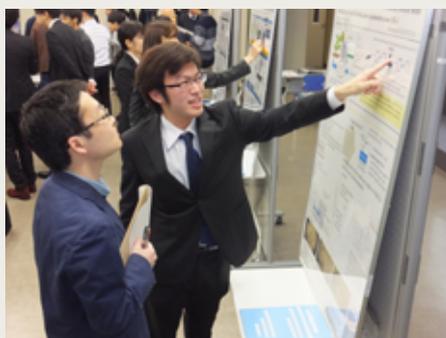
応用化学専攻 2年 松田 大道

(東京工業大学大学院生命理工学院 進学予定)

専攻科を他の大学と同等と考える人が多いと思いますが、実際はそうではないことも多くあります。しかし、大学ではないということは同時に大きなメリットも教示してくれます。最たるものは研究への没頭度です。私は専攻科に入ってから毎日、早朝から夜遅くまで研究漬けの日々を送っていました。家に帰っても僅かばかりの睡眠をとるだけ。他の大学でこれができるのでしょうか。

この2年間で、研究者としてのスキルは上達したと実感します。極上の2年間でした。他にも、自由度の高さという点も専攻科の特徴でしょう。本科時代と比べて選択科目の割合が激増しており、自分のライフスタイルにあった時間割を組みやすくなっています。研究に寄り添ったスケジュールリングができるのです。

近年、技科大等への編入学が難化し、専攻科希望者が増加している背景があります。しかし、先に述べたように専攻科は



大学ではありませんので、リスクヘッジを身につけた者にこそ、専攻科卒業後の華やかな未来が約束されているのだと思います。

機械システム工学科 5年 学級担任 石向 桂一

5年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。岡島先生より担任を引き継ぎ、早くも3年が経過しました。このクラスはとても雰囲気良く、授業でも教員の問い掛けに元気な反応が返ってくる楽しいクラスでした。担任を引き継いだ3年次には、考え方や行動がまだ幼い印象で、担任の小言も多かったかもしれませんが、一方で、それを正面から受け止めてくれる素直さは、当時から変わらぬこのクラスの長所だと思います。卒業を迎えた今では、学生達に任せられることも増え、皆が成長したことを実感し嬉しく感じています。卒業後はほとんどの学生が旭川を離れ、新しい環境に身を置くこととなります。待っているのは勉学・研究や仕事に追われる毎日でしょう。それを楽しいと感じるか困難と感じるかは人それぞれですが、たとえ困難だったとしても、乗り越えられるだけの精神と技術を既に身に付けているはずで



です。高専生活で培った知識や経験を活かし、新しい目標のもと、更なる活躍を期待しています。



機械システム工学科 5年 福田 修也

5年前、春の日差しが明るく照らす頃、青春という淡い期待を胸に持ちながら私たちの高専生活は始まりました。入学当初は初々しさが残り若干可愛げがあった私たちですが、5年が経つ頃には色々な意味で皆が大人になり、その頃を思い出すと、恥ずかしさと誇らしさを感じます。

入学式から始まり、宿泊研修、見学旅行、工場見学、と大きな行事がありました。今でも時々思い出を語り合っては、笑ったり、懐かしんだりできるほど中身の詰まったものでした。また、一人一人の個性が強すぎてまとまらないことが多い私たちがでしたが、体育大会や学校祭では一丸となって協力し、皆で楽しむことを目標に頑張ることができました。

そして、そんな私たちを見守り、時には叱っていただいた担任の岡島先生と石向先生をはじめ、今まで関わってきた先生方や職員の皆さまには感謝しております。

最後に、苦楽を共にしてきたクラスメイトへ。また逢う日まで忘れずに！



ご卒業おめでとうございます。卒業という晴れの日を皆様とともに迎えられたことを大変嬉しく思います。私が担任になった当初、皆様に向けて「目標を見つけてください。目標さえあれば、怖い事など何もありません。」と言ったことを覚えますか？この3年間で目標を見つけた学生は、その目標達成に向かって邁進して下さい。見つけられなかった学生は、目標を見つけるために今後も努力し続けて下さい。また、皆様に向けて「担任は学生の雑用係です。上手く活用して下さい。」と言ったことも覚えていますか？皆様の担任になって3年間、様々なことを一緒にやってきましたが、雑用係として、私は及第点でしたでしょうか。初めての担任だったこともあり、至らないところもあったかと思いますが、ご満足いただけていれば幸いです。最後になりますが、皆様の今後の活躍を期待しています。また、いつか会いましょう！



私たち5Eは1年生の頃から仲が良く、まるで家族のような安心感があるクラスです。そんな私たちの担任を務めて下さった小西先生、宜保先生、そして授業をご担当して頂いた教員の皆様には大変お世話になりました。5Eは多くの先生や教員の方々にご迷惑をかけたことを覚えています。数学の授業では、ある先生に、「君たちのクラスは過去最低に頭の悪いクラスだ！」と怒られたこともありました。特に1年生の頃に、怠けてばかりだった私たちを担任であった小西先生が変えてくれました。そのおかげで、下から5本の指に入る成績だった私も今では、上から3本の指に入る優秀な学生になりました。あんなに辛かった大島先生のレポートも今となってはいい思い出です。一瞬で終わってしまった5年間でしたが、色々な人と出会い、たくさんのことを学べた、人生で忘れることができない大切な時間になったのは間違いありません。5年間本当にありがとうございました。



システム制御情報工学科5年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、本校の教育に対してのご理解とご協力に感謝申し上げます。

このクラスは、1・2年担任水野先生と3年担任阿部先生から硬軟織り交ぜた指導を受け、ここ最近では珍しい、「提出物を出さない学生」のいない、「団結」というより「まとまった」というひらがなが適切な一体感のあるクラスでした。5年の最後まで続いた「朝学習（提出物のあるときのみ）」、意外に団結した「体育大会」など、趣味力、体力、学力と個々人が持つ個性を互いに尊重し、助け合いながら成長してきたと思います。進路を決める際には、期待通りに自主的に動いてくれたので担任の出る幕は殆どありませんでした。

これから皆さんは、社会で、大学で新たな一歩を踏み出します。色々なことを考え、行動して、それぞれの形で成長していくことと思いますが、何か困ったことがあれば、連絡してください。卒業後も旭川高専を活用できることを忘れずに。



高専で過ごした5年間の日々は、とても長かったです。しかし、学校で行われる行事、高体連や専体連に向けて練習をした部活動、テスト期間を乗り切るための勉強など、この5年間を振り返るとたくさんの経験や思い出で意外にもあっという間に過ぎた5年間でした。

同じ学年のメンバーがほぼ変わることのない5年間は、同じメンバーだったからこそ深い人間関係ができたと思います。同じ仲間達と5年も一緒に勉強や部活動ができることは高専ならではの貴重な経験で、共に過ごした仲間達と勉強面だけでなく人間的にも大きく成長できました。

入学当時に比べ外見・内面ともに大人になった私たちは、高専での知識や経験を活かして今後の進路で活躍していきたいです。

最後に、担任を務めてくださった佐竹先生、阿部先生、水野先生をはじめ、単位をくださった先生方、5年間を共に過ごした同級生に心から感謝しています。ありがとうございました。



物質化学工学科5年の学生のみなさん、保護者のみなさま、卒業おめでとうございます。みなさんにとって、この高専生活は大変実りの多い5年間だったものと思います。特に高専5年生としての1年間は、進路の決定、採用試験や大学編入試験・専攻科入学試験の受験とその合否、それが一段落すると、卒業論文執筆とその発表・・・といったこれまでの人生では経験したことのないほど慌ただしく、刺激的な生活だったのではないのでしょうか？ みなさんはそれらを乗り越え、“卒業”という大きな成果を得ようとしております。人生には高い障壁を乗り越え、何かをやり遂げた人間にしか見えない景色と世界があると思います。高専卒業というひとつの大きなことを成し遂げたことが、みなさんにとって大きな財産となるものと信じております。4月からはまた新しい生活が始まると思いますが、それが充実したものになることをこころより願っております。



私たち5Cは46人と人数が多く賑やかなクラスです。高専祭や体育大会などの行事では全員で盛り上がり、みんなで楽しく5年間（私は6年間）を過ごすことができましたと思います。5年生では体育大会で校長賞をいただき、また、テレビでも取り上げられた旭川高専の伝統行事である「化学科教員 vs. 5C」のスポーツ大会も行うことができました。今年はソフトボールではなくバレーボールで戦いましたが、楽しく戦えてとてもよい高専生活の思い出として残りました。

また、行事だけでなく学習面でも先生方は真摯に向き合ってくれました。赤点をとっても単位を落としても、5年間（私は6年間）面倒を見てくださった先生方には大変お世話になりました。私たちにとって高専で過ごした5年間（私は6年間）で、学習面でも精神面でも大きく成長することができました。千葉先生をはじめ、お世話になった先生方、同級生に心から感謝致します。ありがとうございました。



平成30年度 卒業生・修了生 進路状況

<進学> 本科 65名 専攻科 10名

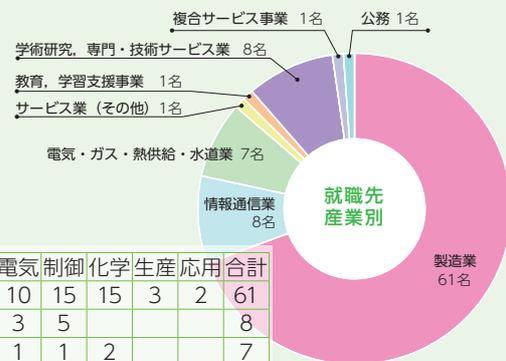
本科進学先

進学先	機械	電気	制御	化学	計
本校専攻科	1	8	6	15	30
北海道大学	2		1		3
室蘭工業大学			1	5	6
北見工業大学		1			1
宇都宮大学		1		1	2
金沢大学				1	1
千葉大学			1	1	2
電気通信大学			1		1
東京農工大学	1			1	2
長岡技術科学大学	4			1	5
豊橋技術科学大学	1	2	2	2	7
九州工業大学		1			1
公立はこだて未来大学		1			1
北翔大学			1		1
札幌市立大学			1		1
文化服装学院		1			1
計	9	15	14	27	65

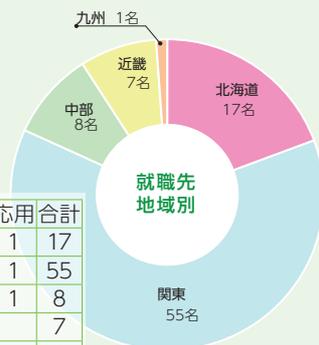
専攻科進学先

進学先	生産	応用	計
北海道大学大学院	2	6	8
東京工業大学大学院		1	1
豊橋技術科学大学大学院	1		1
計	3	7	10

<就職> 本科 56名 専攻科 8名



分類	機械	電気	制御	化学	生産	応用	合計
製造業	16	10	15	15	3	2	61
情報通信業		3	5				8
電気・ガス・熱供給・水道業	3	1	1	2			7
サービス業（その他）	1						1
建設業							
運輸業							
教育、学習支援事業						1	1
学術研究、専門・技術サービス業	5		2	1			8
複合サービス事業		1					1
公務					1		1
合計	25	15	23	18	4	3	88



地域	機械	電気	制御	化学	生産	応用	合計
北海道	7	4	2	2	1	1	17
関東	16	9	16	11	2	1	55
中部	2	1	3		1	1	8
近畿		1	2	4			7
九州				1			1
合計	25	15	23	18	4	3	88

第4学年見学旅行

本校では、第4学年の学生を対象に、道内企業等を訪問し生産現場の施設及びその生産過程を見学させていただく「見学旅行」を実施しています。今年度の見学旅行（10月24～26日）について、各学科の代表学生に感想を寄せてもらいました。

機械システム工学科 4年 古川 亮太

合計で6社を見学させていただきましたが、どれも印象深く、皆、将来により具体性を持たせることができたことでしょう。

個人的には、2日目の株式会社日鋼機械センター、出光興産株式会社北海道製油所は、工場自体がとても大きく、スケールの大きさ、自分たちが学んでいる技術であれだけ巨大なものの製造や、大きな施設を運用することができるということを実感でき、これからの残り少ない学校生活の大きなモチベーションとなりました。

宿泊に使用させていただいた、登別第一滝本館、丸駒温泉旅館では各々が普段と違う環境で、記憶に残るとても良い思い出を作れたと思います。



電気情報工学科 4年 林 優太

計6社を訪問し、それぞれの企業の歴史や理念、仕事内容を学び、将来の自分の姿を想像することで今現在自分に何が必要で何をしなければいけないのかをはっきりさせることができました。

「高専時代に習ったことは基礎となっている。だから大切だ。」これは高専卒の社員の方からいただいた言葉です。今までは、これがいつどこで使う知識なのだろうか、本当に意味があるのだろうかと半信半疑で勉強してきましたが、今やっていることがそのまま使われるのではなく、それをベースとして活用していくものと学びました。また、高専卒の方の活躍を知り、もっと頑張らなくてはいけないと自分を鼓舞しました。今回の見学旅行は3日間という短い時間でしたが、本当に貴重な経験をさせていただきました。この経験を無駄にせず、社会に貢献できるような技術者になるため、より一層努力していきたいと思います。



システム制御情報工学科 4年 五箇 亮太

4年生になり、卒業後の進路について本格的に考えなくてはいけない時期になりましたが、私は進学するという漠然とした考えしか持っていませんでした。今回の見学旅行は、そんな自分の考えを思い返す良い機会となりました。

これまでに、企業の方々や旭川高専の卒業生による講演会に参加してきましたが、実際に企業を訪問し、見学しながら社員の方々の話を聞いた今回の方が、仕事場の雰囲気を感じられたり、質問も多く浮かんできたりと、得るものが多くありました。

今回の見学旅行や夏季のインターンシップを通じて、私の学びたい業種や就きたい企業のイメージがかなりまとまってきたと思います。今回の見学旅行をしかと振り返り、今後の進路選択に限らず、有意義な学生生活や進学・就職後の人生を送るために役立てていきたいです。



物質化学工学科 4年 梶 暉

今回の3日間の見学旅行で、様々な場所を見学し沢山の事を学ぶことが出来ました。

個人的に特に印象に残った三井化学株式会社北海道工場では、普段の学校生活では学ぶことの出来ない化学機器などを見学させて頂き、今後に結び付く貴重な経験となりました。仕事内容を知るだけでなく、企業内での雰囲気を知ることの出来る唯一の機会でもありました。どこの工場の方々にも親切に対応して頂き、また詳しい説明やこちらの質問にも丁寧に答えて頂き、とても勉強になったと思います。

北海道大学環境科学院では多くの研究室を見学し、北海道大学の学生の方にも話を聞くことができ、これから始まる卒業研究の参考となる部分もあり充実した見学となりました。今回の見学旅行で得たことを活かし、今後の就職活動や将来に役立てたいと思います。



アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト

物質化学工学科 5年 中島 優作

皆さんには学生時代、打ち込んできた部活や習い事があったでしょうか。僕の場合のそれはロボコンです。僕は、5年間の全てをロボコンに捧げました。僕の場合は物質化学工学科というロボコンとは無縁の学科だったこともあり、ロボコンに必要な知識は自力で補うために必死に勉強しました。平日も休日もずっとロボコンをしていたので、まさにロボコン漬けの生活でした。そうした日々を通して、様々なことを学びました。学んだことで一番重要だと思ったのは、努力の大切さです。僕は、誰よりも部活ができませんでしたが、誰よりも努力をして、チームリーダーや部長を務めることができました。努力を続けて本当に良かったと思います。

今年のロボコンは初めての自動制御ということもあり、例年以上に苦労しました。大変なのはそれだけでなく、上級生としてどのように部やチームをまとめるか、下級生の教育はどの程度行うのかなど、悩むこともたくさんありました。さらに、後輩がめ事を起こして仲裁に入ったり、同期が全員辞めて同学年は僕一人になったりと、イレギュラーな事態もありました。これらの全てに対して満足のいく回答を出せた訳ではありませんし、他人に迷惑をかけたり失敗することもたくさんありました。ただ、そうした経験が今の僕を作っているのは間違いありません。

ロボコンでの経験がロボコン以外で生きることもありました。僕はお菓子作りが趣味なのですが、今年のロボコンが終わってからお菓子を作っていると、前よりも上手くなっていることに気が付きました。なぜだろうと考えていると一つの結論にたどり着きました。恐らく、調理の各工程の意味をしっかりと理解してから作るようになったのだと思います。このことは、ロボコンで意味を一つ一つ理解して作業を進める中で培われたのだと思います。

最後になりましたが、僕がここまで部活を続けることができたのは、先生方、部の皆、保護者の方々をはじめとした多くの方々の支援のおかげです。この5年間は僕の一生の思い出であり、かけがえのない宝物です。本当にありがとうございました。

僕は今年で引退ですが、来年からも僕の意志を継いだ後輩がロボコンに全力で取り組みます。これからも、旭川高専ロボット・ラボラトリをよろしくお願いいたします。



平成最後の高専ロボコン全国大会 ロボット・ラボラトリ 顧問 三井 聡

平成元年第2回大会に私がロボット・ラボラトリの顧問になってから30年になります。ロボット・ラボラトリは、平成の時代に、全国大会に16回出場し、ロボコン大賞1回(1998年)、優勝2回(1993年、2003年)、準優勝1回(2014年)、地区大会では優勝12回(6連覇)、同校決勝対決12回など、素晴らしい成績を残すことができました。多くの部員がロボコン一筋で努力した結果であると思っています。今でも彼らは全国大会会場に足を運び、温かい声援を送り、慰労会では選手たちを労ってくれます。

今年の高専ロボコンの競技テーマは Bottle-Flip Cafe (ボトルフリップ・カフェ) でした。自動ロボットと手動ロボットが、自陣の8つのテーブルにペットボトルを投げ、立てるという競技で、予選ではペットボトルを立てて点数を競い、準決勝、決勝では全てのテーブルにペットボトルを立てるまでの時間を競いました。ロボットの自動化技術、投射機構だけでなく、ペットボトルやその内容物に何を使うかが、勝負の決め手となりました。

今年地区大会は4年に一度やってくる地元旭川で行われました。A、B両チームとも地元の期待を一身に背負い頑張ってきましたが、残念ながら7年連続地区優勝と5回連続地元開催優勝を逃してしまいました。他高専が強くなっているというよりも、旭川高専が年々弱くなっているように感じます。全国大会への推薦は他校チームが選ばれてもおかしくなかった状況でしたが、かろうじて3年生主体のBチームが選ばれました。

全国大会はチームリーダーの中島君の誠実さが表れた素晴らしい選手宣誓で始まり、1回戦(対福島)では23対8、2回戦(対和歌山)では16対11で勝利しました。準々決勝(対函館)は地区大会のリベンジができず4対6で敗退しました。地区大会では調整不足で不甲斐なかったロボットが見違えるほどに素晴らしいパフォーマンスを見せ、ベスト8という成績を収めることができました。地区大会で悔しい思いをした部員の頑張りが実を結んだのではないかと思います。

最後に、本校教職員、同窓会、後援会、選手親族、ロボコンOBなど大変多くの方々からのご支援、ご声援を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。来年も応援よろしくお願いいたします。



第 29 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

パソコン部顧問 嶋田 鉄兵

平成 30 年 10 月 27 日 (土)・28 日 (日) の 2 日間、徳島県徳島市の「アスティとくしま」にて第 29 回全国高等専門学校プログラミングコンテストが開催され、パソコン部からシステム制御情報工学科 4 年生の近江雄哉君、伊勢谷賢司君と 3 年生の齋藤唯翔君の 3 名が競技部門に出場しました。

今回の競技は陣取りゲームであり、指定ターン内で得られた陣地について、陣地内のマスの合計点数で勝敗が決まります。ただし、点数配分は司令役の学生のみが QR コードで知ることができ、それを基に盤上のメンバーへ指示を出して陣取りを行う内容となっていました。

試合ごとに点数配分や相手の動きが変わる難しい競技でしたが、今回も決勝トーナメントまで進むことができました。経験や反省点をぜひ次回へつなげてもらいたいと思います。なお、自由部門には最先端テクノロジー同好会が『どろんフレンズ 目指せ IoT マイスター!!』という内容で参加・発表し、敢闘賞を受賞したことを併せてお伝えします。



第 15 回全国高等専門学校デザインコンペティション

指導教員 機械システム工学科 石向 桂一

今年度の全国高等専門学校デザインコンペティションの本選は、11月10日(土)・11日(日)の2日間にわたり、釧路市観光国際交流センターにて行われました。本校からは、機械システム工学科 2 年田原奨真君と 3 年石下真鈴さんの 2 名 1 チームで AM デザイン部門に出場し、「スポーツ支援アイテム」というテーマに対し、安価でカスタマイズ可能なアウトソールによる運動不足解消を提案しました。総合成績は、エントリーした全 26 チーム中、予選を通過し本選に出場した 9 チームの中で 7 位となりました。

出場学生 機械システム工学科 3 年 石下 真鈴

今回の活動を通じて、新規でアイデアを考え実用化することの難しさ、相手の疑問に対する確かなレスポンスや証拠を示す事の重要性を学びました。自分達で考えつくアイデアの中からどのようにして魅力的なアイテムを生み出せるか、相手に興味関心をもってもらえるのかを考えるのは非常に難しく、視野を広げ思考を柔軟にしなければならないと反省しました。また、生産コストや売り上げの見積などのビジネス的な面も審査対象でしたが、知識不足が露呈してしまいました。提案するアイテムについて納得してもらえる説明をするために、様々な分野の知識がもっと必要だと思いました。

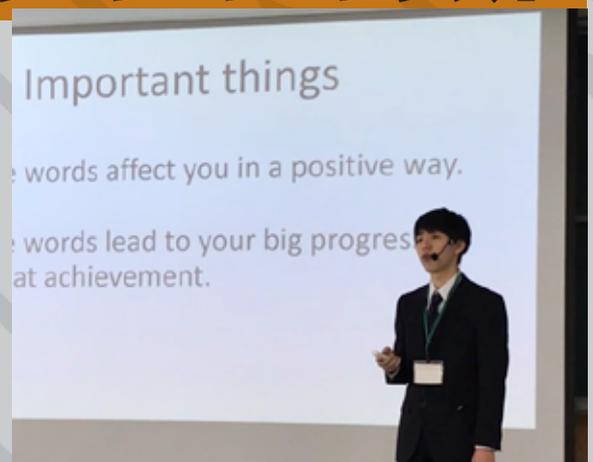


第 9 回北海道地区高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト

出場学生 物質化学工学科 3 年 平澤 晃大

僕は今回、11月4日に苫小牧高専で開催された英語プレコンに参加させていただきました。今回の出場学生は 4 名で、そのうち 2 位までが全国大会に出場できるというものでした。僕は 3 位入賞で、惜しくも全国大会出場にはなりませんでしたが。

そもそも英語プレコンとは、パワーポイントを用いて 5 分間の英語のプレゼンテーションを行い、その内容と、審査員との質疑応答を約 2 分行った結果を審査するものです。そこで重要になったのはやはり準備であったと感じました。英語のスピーキング力を向上させたり、分かりやすいパワーポイントを作るのに多くの時間を費やし、さらにそれを覚えるのにもとても時間がかかりました。本番での他の出場者との差はそこにあったと思います。ですので、今回のこの経験を反省材料にして、次回第 10 回大会の英語プレコンに再び挑戦したいと思います。



第56回 高専祭 10月19~21日

学生会会長 電気情報工学科 4年 中川 夢斗

学生会長の私にとって、最後の行事となる第56回高専祭を学生主体で無事やり遂げることができ、安心すると共に少し寂しさも感じています。

今回の高専祭は本校の学生、一般の方々がより一層楽しんでいただけの重さを置いて運営を執り行いました。特に力を入れたのが後夜祭ライブです。参加者の安全面を考慮しつつ、より臨場感を出すために間接照明やスモークなど新たな試みを取り入れました。

また、全体の運営の指揮をとる中で不測の事態が起こることもありました。そのような事態に迅速に対応する柔軟さ、人を動かすことの難しさを学び、自分自身大いに成長できたと感じております。最後になりますが、ご来場いただいた皆様がこの高専祭をきっかけに本校に興味を持っていただけたなら幸いです。

高専祭実行委員長 物質化学工学科 4年 上村 浩太郎

私にとって4回目の高専祭となった第56回高専祭。今回初めて高専祭でのリーダーを経験したのですが、これまでとは違い、私たちが主体となって高専祭を運営するとなると、思ったようにいかないことが多々ありました。しかし、自分たちで打ち合わせや物品の確認などの準備をしてきた高専祭を無事に終えることができ、とてもうれしく思います。自分一人では絶対にできなかつたと思いますし、私を支えてくれた学生会のメンバー、先生方にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



国際交流事業報告

本校では現在、7か国9つの大学・高校と協定を結び、国際交流事業を行っています。今年度は、以下の短期派遣および受け入れを実施しました。

- ・フランス人インターンシップ受け入れ（2名、4月5日～6月末）
- ・タイ人インターンシップ受け入れ（3名、5月23日～7月末）
- ・大韓民国・水原ハイテック高校生受け入れ（10名、7月11日～17日）
- ・タイ・カセサート大学工学部へのインターンシップ派遣（10名、8月19日～25日）
- ・大韓民国・水原ハイテック高校への派遣（9名、8月22日～28日）

また、短期の受け入れとは別に、本校にはアジアからの留学生が本科3年生から5年生まで在籍し、日本人学生と同じ授業を受け卒業研究も行っています。10月22日～23日には「留学生実

地見学旅行」、1月12日～14日には「道内高専外国人留学生交流会」を実施し、他高専の外国人留学生や日本人学生チューターが交流を図りました。

今後、国際交流事業における学生の受け入れおよび派遣がさらに活発になり、受け入れ学生と本校学生の双方にとって、異文化を体験しながら国際感覚を身につける良い機会になってほしいと思います。新年度における国際交流事業につきましても、その都度案内を差し上げていきますので、本校学生たちの積極的な参加を期待しています。



本校留学生送別会（2月）



水原ハイテック高校生の受け入れ（7月）

学生たちのキャンパスライフを支援する

男女共同参画推進室長 富樫 巖

今年度は以下の3事業を企画・実施しました。

「女性研究者と女子学生との交流事業」：女子学生のキャリア形成支援を目的に、7月19日に道総研・林産試験場から宮崎淳子氏をお招きして4年女子学生との交流会を開催しました。木質材料開発などが担当の宮崎氏から職場紹介、研究者としての業績・経験の説明があり、活発な質疑応答が行われました。

「本科1年女子学生と校長との懇談会」：女子学生の専生活支援を目的に、11月28日に4学科11名と校長との懇談会を開催しました。「女子学生が過ごしやすい環境づくり」「卒業後の進路イメージ」などについて情報交換が行われ、「校長先生との情報交換が貴重だった」「今後も続けるべき」などの意見が寄せられました。

「専攻科2年生と校長との懇談会」

12月17日、9名の男女専攻科生が出席して「専攻科に進学して感じたメリット・デメリット」「後輩のために母校に残したいリクエスト」など、専攻科2年間や本科からの7年間の思いを校長と語り合いました。



「専攻科2年生と校長との懇談会」後、清水校長を囲んで！

退職する教職員の紹介

次の教職員が今年度を持ちまして本校を退職します。

平成 31 年 3 月 31 日付

<教員> 一般人文科・准教授 沢谷 佑輔
一般理数科・講師 寺木 悠人

<職員> 技術創造部技術長 山内 広也
技術創造部教育研究グループ 川江 修
技術創造部教育研究グループ 富樫 愛采

定年退職教員からのご挨拶

校長 清水 啓一郎

2014 年 4 月着任以来 5 年が経過し、3 月末で校長を退任致します。教育の目的は人格形成ですが、企業も同様で「企業は人なり」、「ものをつくる前に人をつくる」と言われます。学校も同じく、学生の育成の前に教職員の育成が非常に重要です。少子化・過疎化の進展と運営費交付金の遞減下での学校経営には厳しいものがありましたが、皆様方のご協力により何とか全うできました。

5 年を振り返ると多くの事がありました。着任後、最初に手掛けたのが「2040 年を見据えた北海道における高専の在り方」で、学科改組の始まりです。全国で少子化と過疎化が進む今日、高専の適正規模と適正配置を戦略的に検討する最後の機会です。旭川市、鷹栖町との包括連携協定締結、東南アジア 3 大学、ヨーロッパ 2 大学との学術交流協定締結、高専機構関連プロジェクト推進（実験スキル、情報セキュリティ人材育成、イニシアティブ 4.0、MCC 推進）、COC + 事業、次世代教育演習室改修、第 8 次旭川市総合計画審議会会長。心残りには、学科改組が道半ばの状態での退任すること。

最後にこれまでのご支援とご協力に感謝申し上げますと共に、旭川高専の今後の発展と皆様方のご健勝・ご活躍をお祈り致します。



機械システム工学科 教授 立田 節雄

平成 31 年 3 月を以て旭川高専を定年退職します。昭和 56 年 4 月に機械工学科の助手として採用され、38 年間勤務しました。この間、学級担任を 4 回 12 年間経験しました。先日、最初に担任をした機械工学科 27 期生（平成 5 年 3 月卒業）のクラス会に招かれ、退職のお祝いをして頂きました。担任業務をしている時は、残念なこと、辛いこともありましたが、社会人になってからの活躍の様子を伺うことができ、心から嬉しく思いました。高専教員として技術者教育に携わることができ、本当に幸せでした。

これまでお世話になった旭川高専の教職員、卒業生、学生、保護者の皆様に感謝申し上げます。退任の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



物質化学工学科 教授 小林 渡

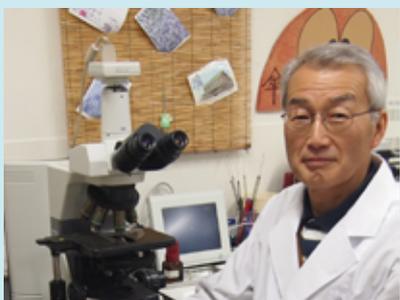
平成 8 年 4 月に赴任し、工業化学科で「生化学」、「生物工学」の講義を担当しました。当時の校内は土足禁止であった事、教員全員参加のミーティングが月曜日に開かれていた事等を思い出します。私は、理学部生物系で仕事をしていたため、工学系の雰囲気は新鮮に感じました。専攻科設置、物質化学工学科への改組で担当科目が増えましたが、生物分野に加え、環境化学分野を担当できた事は糧となっています。その他、8 年間一般科目の生物を担当し、4 学科の全学生を教えた事、学科長としての多数の企業訪問や学生指導、相談室業務が強く印象に残っています。今、教員室のホワイトボードには、この三年間に訪問してくれた卒業生 32 名の名前が書かれています。2000 名を超える多くの学生との出会いもまた大きな喜びです。現在、高専等の高等教育機関は大きなうねりの中にあり、今後も様々な難題が降りかかる事が予想されますが、少人数の小回りがきく組織の利点を活かして、乗りきって行く事を信じています。在任期間を通して、体調不良で教職員、学生達に迷惑をかけたこととお詫びするとともに、様々なサポートに感謝します。



物質化学工学科 教授 富樫 巖

2005 年 4 月、自称転職族の小生は 5 つ目の職場となる旭川高専に採用して貰いました。14 年が経過し、縁遠いと考えていた定年退職を体験できることに喜びを感じます。2 年間の労働基準監督官を除けば、40 年余りを研究 / 教育を職業としてきました。私生活では北海道暮らしが 35 年間となり、夏の過ごし易さに感謝し、冬の除雪に汗を流しました。また、高専では学生たちと 6 年強を費やして旭川・留萌地域の空中浮遊カビのフィールド調査、その取りまとめができたことが財産です。

農業地帯には農業活動の影響を受けたカビ達が分布していることが分かりました。- 20℃を利用して酵母を殺し、カビを眠らせる研究が最後のテーマです。儲からない研究のみでした。



一般理数科 教授 長岡 耕一

私は平成 7 年度から旭川高専に勤務しております。それまでは北海道立高校の数学教員として勤めていました。この年は、それまでの「一般科」の教員集団から「一般人文科」と「一般理数科」に分離した年であると聞いております。当時、高専ではすでに週 5 日制になっていたこともあり、それまでの学校環境とはかなり違うところに来たものだと思います。

本年度までで 24 年間勤めたこととなります。その間の校務分掌としては、担任を 7 年、主事補を 2 年、一般理数科長を 6 年、学生主事を 3 年務めました。学生主事の時には、ロボコンの北海道地区大会、高野連夏の旭川地区大会、高専体育大会の全国大会（北海道地区担当）の当番校業務があり、多くの教職員の方々のご協力により成し遂げられたことが思い出されます。



平成14年、旭川高専と地域産業界との交流・連携を活性化し、双方のレベルアップと地域社会発展への寄与を目的とした「産業技術振興会」が設立され、現在、地域の企業66社が会員となっています。これらの会員企業について、前号に引き続き2社ご紹介させていただきます。

No.3 東成建設株式会社

会社概要

- 設立：1978年2月、資本金：8,000万円
- 従業員：53名
- 業務内容：医療福祉建築・社屋工場建築・商業建築・社寺建築・公共建築・注文住宅・賃貸住宅等の新築リニューアル、リフォーム工事の設計、施工



代表取締役
及川 浩和

アピールポイント

弊社は旭川と札幌に拠点をもち、創業41年目を迎える建築工事を主体とする建物に関するサービス業です。建物の企画、設計、施工はもちろん、アフターサービス、メンテナンスを充実し、5年毎の建物診断や中長期のメンテナンス計画の提案と一貫した建物サービスを展開しています。建築のみならず設備、電気、材料工学の技術が必要です。「お客様との良好な関係を永く継続する」ことを信念に持ち、真心と努力と技術で信頼される会社になり、「建物もつくるが人もつくる」を大事にしている会社です。

連絡先

旭川市宮下通22丁目左10号
TEL：0166-31-5115
<http://www.to-sei.co.jp>



No.4 株式会社橋本川島コーポレーション

会社概要

- 設立：1949年10月、資本金：9,200万円
- 従業員：142名
- 業務内容：総合建設業
土木・建築・舗装・住宅各工事施工・アスベスト・ダイオキシン含有調査分析及び除去作業などの環境事業対策



代表取締役社長
橋本 毅

アピールポイント

弊社は、今年で設立70周年を迎える総合建設業です。毎年のように「優良工事表彰」を受賞する高い技術力と、10年連続黒字計上、無借金経営という安定した財務内容、そして社内の風通しの良さが自慢です。「社会に必要とされる企業を目指し、豊かな明日を創る」との経営理念のもと、「お客様満足第一」を旗印に掲げ、各部門が互いに連携、切磋琢磨しながら、道内一円に亘って幅広く施工業務を展開しています。建設業も、近年急速にIT化、機械化が進み、この流れは今後更に加速して行きます。旭川高専の皆様には、地元旭川への就職で能力を遺憾なく発揮されること、そしてものづくりの醍醐味を私達と共に味わうことが出来ればと思っております。

連絡先

旭川市旭町2条7丁目12番地90
TEL：0166-55-0001
<http://www.hkcorp.co.jp/>



学内セミナー

12月15日(土)、本校にて「学内セミナー」が開催されました。このセミナーは、個々人の個性や適性に合った職業を学生自ら選択できる能力の育成や、具体的な将来に向けた学修意欲を高めるためのキャリア教育の一環として、平成25年度から実施しているものです。

今年度は、12教室に合計47の説明エリアを作り、午前・午後の部に分けて道内外から合計90社を超える過去最多の企業にご参加いただきました。また、対象学年をこれまでの専攻科1年生、本科3・4年生から、専攻科・本科の全学年へ広げたことにより、本科1・2年生の参加もあり、最大規模の学内セミナーとなりました。

学内セミナーに参加した1年女子学生は、合計4社の説明を聞き、「卒業生が説明に来ていた企業もあり、親近感が湧いて働く姿をイメージしやすかった」と話し、「1年生のうちからセミナーに参加できたことで、翌年以降さらに多くの会社説明を聞くことができる」と、本校入学年度からセミナーに参加できたメリットも述べていました。



平成31年度行事予定(4月～5月)

4月4日(木)	入学式
5日(金)	始業式・対面式(本科) 1年オリエンテーション(本科・専攻科) 授業開始(専攻科)
8日(月)	授業開始(本科)
9日(火)	寮生総会
11日(木)	第1回TOEICIPテスト(本科・専攻科)
11日(木)・12日(金)	新入生合宿研修(本科1年)
16日(火)	健康診断(本科・専攻科)
18日(木)	交通安全講演会(本科1・3・4年)
25日(木)	学生総会(本科)
26日(金)	授業参観日(本科)
27日(土)	閉寮日
5月6日(月)	開寮日
9日(木)	英検IBAテスト(本科1～3年) TOEICIPテスト(本科4・5年)
16日(木)・17日(金)	校内体育大会(本科)
18日(土)	専攻科推薦選抜試験
23日(木)	いじめに関する講演会(本科1年) インターネットトラブル防止講演会(本科2年)
30日(木)	選挙権に関する講演会(本科3年) 薬物乱用防止講演会(本科5年)

編集後記

本科5年生、専攻科2年生のみなさんは、これまで先輩を送り出す立場だったのが、ついに自分自身が送り出されることとなり、頭の中に新しい世界がどんどん描かれてきていることと思います。

学校行事としての卒業式・修了式は「毎年恒例」ではありません。しかし、その年の社会情勢や学生一人ひとりが本校で積み重ねてきたキャリアを顧みると、過去と同じ卒業式・修了式などももちろんなく、「一度きり」の特別な節目となります。

教職員をはじめ本校に携わるすべての人が、今年度に抱いた特別な気持ちで、卒業生・修了生のみなさんを送り出します。描かれ始めた新しい世界が明るく広がっていくよう、心より祈念いたします。

櫻井 靖子 (学校案内 WG)

FANCT vol.133

「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」(楽しい、愉快な)の音をつけました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しい学校だよりになるよう名付けました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目1番6号
TEL 0166-55-8000 (代表)
FAX 0166-55-8082

<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切いたしません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー転写等の二次利用は固くお断りしております。